“農地・水・環境保全”
水土里のネットワーク通信

シンポジウム記念号
2025. 1. 30発行
島根県農地・水・環境保全協議会

伝えることの大切さ

島根県土地改良事業団体連合会
専務理事　渡部明孝（初代編集者）

平成 19 年度から「農地・水・環境保全向上対策」が本格的に動き出しました。
過疎化や高齢化が進む中でも、そこに住んでいる方々は地域を守り大切にしていることが当たり前のことでした。

そこに、農村環境や景観等の保全向上を対象に、農業者だけでなく非農家も参画する仕組みを持った農村振興のための施策が動き出したのです。
この施策の円滑な導入を通じ、たくさんの地域の方々が主体的に活動に取り組まれるよう、まずは活動組織の立ち上げを支援することが必要と考え、「活動組織設立マニュアル」（全 113 ページ）を作成しました。その結果、初年度は 430 を超える活動組織の取組が始まりました。改めて、農村地域を守りたいという、地域に住まう人々の強い思いとそのためには力を合わせて地域共同で取組を進めていこうという集落の力を強く感じたところです。

しかし、当初は事務作業も煩雑であり、どの組織も具体的活動は手探りの状況でしたので、各組織の具体的活動情報を発信し、横展開を図ることが必要と考え、平成 19 年 11 月1日、水土里ネット島根のネットワーク通信創刊号を発刊し、現在に至っています。当時の地元新聞に、「用水路保全自力で」、「農村を美しくコスモス祭り」、「遊休農地に子供と協力して球根植える」、「菜の花揺れる切川バイパスに」等々活動が記事になったことにヒントを得て、各号とも県内各地からトピックス的活動を紹介してきました。

今後も、地域に刻まれた歴史、美しい景観、豊かな自然や食材、魅力ある暮らしぶり、文化、それらを体現した人材、そうした各地域それぞれの個性ある情報を発信し続けていきます。過疎化、高齢化が容赦なく進む中にあっても、地域が活性化することを願って。

目　次

農業の大切さを知ってもらう「出前事業」 １５３号（令和６年９月号）	来待大森環境保全会（松江市）	・・・・ 1
”いまでしょ”　～活動始めました～ １２２号（令和元年８月号）	西荒島整備ナウ（安来市）	・・・・ 2
綺麗な集落を次世代へ １２８号（令和２年７月号）	福留を守る会（安来市）	・・・・ 3
大きな芋　掘ったゾー １４３号（令和５年１月号）	新田谷活動組織　（安来市）	・・・・ 4
頼りになるのは「地元力」 ５４号（平成２４年４月号）	昭和環境保全組合（雲南市）	・・・・ 5
「地域の財産」を体験 ５１号（平成２４年１月号）	阿井地区環境保全管理協定（奥出雲町）	・・・・ 6
地域活性化につなげて　～シバザクラ植栽～ １２０号（平成３１年２月号）	亀嵩環境保全協定（奥出雲町）	・・・・ 7
組織へ行ってみよう！　～魚巣ブロック編～ ３５号（平成２２年９月号）	日下環境保全組合（出雲市）	・・・・ 8
用水路保全作業隊発足編 ４３号（平成２３年５月号）	古志地区農地と水と環境を守る会（出雲市）	・・・・ 9
”誰かがやらんといけんですけん” １３１号（令和３年１月号）	常松町を守る会（出雲市）	・・・・ 10
優しい色に包まれて ８１号（平成２６年７月号）	口羽広域協定（邑南町）	・・・・ 11
相談員「出前点検」 １０５号（平成２８年８月号）	邑南町出羽地域農地・水・環境保全管理協定（邑南町）	・・・・ 12
グループ員の英知を結集 ７３号（平成２５年１１月号）	山田地域農地・水・環境保全会（大田市）	・・・・ 13
防草シートで草刈り作業の省力化 １４５号（令和５年５月号）	波根農地・水・環境向上対策協議会（大田市）	・・・・ 14
田植えばやしも賑やかに ９５号（平成２７年９月号）	跡市環境保全組合（江津市）	・・・・ 15
農道法面への植栽　～カバープランツ編～ ６８号（平成２５年６月号）	農悠久の里組合（益田市）	・・・・ 16
しまね景観賞受賞 ４２号（平成２３年４月号）	下田環境保全組合（隠岐の島町）	・・・・ 17

（市町村順）

突撃リポート

農業の大切さを知ってもらう「出前授業」

来待大森環境保全会(松江市)

子どもたちに農業・農村と食の大切さを学んでもらうことを目的に、５月20日（月）松江市宍道町の来待地区において、来待小学校の５年生を対象とした田植え体験が実施されました。この活動は、来待大森環境保全会の代表である清水さんをはじめとした来待地区の農家さんが参加して毎年行われており、20年ほど続いています。

作業を始めるにあたり、まず清水さんから苗の植え方、植える場所などについて説明があり、その後、早速子どもたちに苗が渡されました。子どもたちは次々に田んぼに入っていき、一生懸命苗を植えていました。中には初めて田んぼに入る子どももいて、慎重に足場を確かめながら作業を進めていましたが、慣れてくると植えるスピードも速くなり、一時間ほどで田植えは終了しました。

子どもたちからは、「最初は田んぼに入るのが嫌だったけど、途中から楽しかった。」や、「足が沈んでいく感覚に驚いた。」などの感想がきかれ、指導いただいた農家さんにお礼が伝えられました。

終わりに清水さんから、「農業は生きていくうえで大切なことです。ご飯を食べられることは当たり前ではありません。農業の大変さや、食の大切さを感じてもらえたら嬉しいです。」と挨拶があり、参加者全員で記念撮影をして今年度の田植え体験は終了しました。

来待小学校の杉原校長先生からは、子どもたちには、地域とのつながりを大切にしてもらいたいことや、今後も継続して実施していけたら嬉しいというお話を伺うことができ、地域、小学校お互いにとって非常に良い取り組みだと感じました。

今後は、秋の稲刈り体験と収穫した米での餅つきが予定されているようです。

こうした農業体験は、食や農に対する意識の醸成を図るうえで大切な取り組みであり、農業・農村を次世代へ引き継ぐために非常に重要なことだと感じました。

今後も継続して取り組んでいってほしいと思います。

来待地区のみなさん、来待小学校のみなさん、ありがとうございました。

突撃リポート

"いまでしょ"　～活動始めました～

「西荒島整備ナウ」（安来市）は、弥生時代から古墳時代にかけて古代出雲を代表する墳墓が多数築かれた荒島地域の西側に位置し、稲作を中心とした地域です。今回は、本田代表にお話を伺いました。

今年度から多面的機能支払に取り組まれますが、地域の現状はどうでしょうか。

ほ場整備から既に 35 年が経過し、水路の繋ぎ目から漏水が見られたり、イノシシが水路の脇を掘ったりして困っています。また、地域を流れる日白川にはヌートリアが生息し、側の農道に穴を掘り、耕作車の通行に支障を来している所もあります。

これからの５年間でどういうことを計画されていますか。

地域の皆さんで、水路や農道の草刈り、泥上げ、清掃活動を計画しています。それと地域の中でセイタカアワダチソウが繁茂する箇所があり、猪の住処とならないためにも駆除をしていきます。また、水路法面にシバザクラを植栽し、近くの「古代出雲王陵の丘」に観光に来られた方の目も楽しませようと考えています。

長寿命化では、水路、農道の補修を計画しています。予算のこともあり、優先順位をつけるのが難しいと感じています。

春の活動が終わって皆さんどうでしょうか。

５ 月には、水路、側溝の泥上げ。６ 月には農道の草刈り、清掃活動をしました。これまでは、農業者のみで行っていましたが、この活動に取り組むことで地域の方も沢山参加していただきました。この分だと、セイタカアワダチソウの駆除も皆さんの協力ですぐ済みそうな気がします。

本田さんの活動への思い、地域への思いをお聞かせください。

近年、「みんなが寄り合って何かをする。」という事も少なくなってきました。作業の休憩の合間に「あーだ、こーだ」と話し合う機会づくりになればと思います。

また、子供たちもゴミを拾うことによって感じるものがあれば良いと、、、、故郷を思う気持ちを繋いでいきたいと思っています。

最後に、この組織名をつけられた理由があれば教えてください。

誰かが何とかしてくれるだろうという雰囲気でした。「このままだと地域がダメになる。」という危機感から、始めるなら「今しかないでしょう。」という気持ちを込めました。

本田さんお忙しいところありがとうございました。

突撃リポート

綺麗な集落を次世代へ

向かって右から荒薦さん、小池さん

福留を守る会（安来市広瀬町）は、平成２４年度から多面的機能支払に取り組まれています。

代表の荒薦（あらこも）さん、書記・会計の小池さんにお話を伺いました。

活動を始められたきっかけを教えてください

事務が大変と思いためらっていましたが、水路が壊れ多面支払で直すことにしました。事務は最初、水土里ネットに委託していましたが、「助さん」ができて自分でも楽にできるようになりました。

活動を続けて良かったことはなんですか

水路や農道の保全活動は、これまで受益者だけで行っていましたが、この対策を契機に、集落の皆さん全戸に参加してもらえるようになりました。

また、女性の皆さんに、環境美化活動へ積極的に参加していただけるようになり、集落の周りがいつも花で彩られているようになりました。

集落営農で、女性の方々の「きっかけ」になればと、話し合いの場を作り発足したのが「みらいの会」です。色々話し合いアイデアを出しながら楽しく、活発に活動を続けられています。青大豆を栽培し味噌作りなども取り組まれています。

地域の現状やこれからの５年間で取り組んでいこうと思われる活動があれば教えてください

空き家も増えてきており、鳥獣害対策にも苦労しています。

今後は、長寿命化で農道舗装が少し残っています。後は、用水の流れが悪い水路の補修を行う予定です。農地周りや農道沿いの雑木や竹の伐採も行いたいと思っています。

地域で不安なこと、困っていらっしゃることがありますか

構成員の高齢化や担い手不足です。地域農業の受け皿となる営農組合や農事組合法人を考えた方が良いのではと思ったりもしますが、営農は個人でという考えの方も多く、なかなか営農組合などに向かう気運が高まりません。

最後に活動への思い、地域への思いをお聞かせください

集落の環境が綺麗だと、若い人が帰ってくれるのではと思いながら活動を続けています。

世の中は経済的に「グローバル化」といわれてきましたが、このコロナで、日本は日本でという自給自足になっていくのではと考えたりしています。そのためにも集落を守っていって、次の世代へ引き継いでいこうと思っています。

荒薦さん、小池さんありがとうございました

突撃リポート

大きな芋　掘ったゾー

新田谷活動組織(安来市)

新田谷活動組織は約 15ha の農地を対象に活動が行われている組織で、鳥取県境に近い安来市伯太町に位置し、県下でも最も東に位置する活動組織の一つです。多面的機能支払とともに中山間地域等直接支払にも長く取組み、各家庭の奥様も構成員となっておられることから女性が多く積極的に活動に参加されている組織です。

みんなでマルチのはぎとり

10 月 24 日、安来市立赤屋小学校児童（1 年生から４年生１２名）の体験学習の一環として、新田谷活動組織の圃場で、「芋掘り体験・交流会」が行われましたので取材させていただきました。

この芋掘り体験交流会は 10 年以上続いているということで、組織の方は当日、午前 9 時から 2 時間かけて準備作業を行い、11 時に児童が小学校から歩いて圃場に到着しました。すぐに芋掘りとはならず、芋のつる取りやマルチの剥ぎ取りと順を追っての芋掘り体験となり、上級生は、指導者のもと鎌を使って芋のつる刈も行いました。

顔より大きな芋

児童は、5月に苗の植付を行っていたこともあり楽しみにしていた芋掘りで、低学年の児童は教科書に載っていた「おおきなかぶ」のように芋と力比べをして、組織の方がスコップ等で回りを掘り緩めてようやく芋が土の中から出てくるといった状況が展開されており、なかには顔より大きい芋を掘った児童もいました。

当日は、芋掘りが軌道に乗った時に雨が降り出し、降雨コールドゲームとなり児童は少し残念がっていましたが、最後は参加者が集合して「芋掘りが好き、安来が好き」のコールで集合写真を撮り終了となりました。

収穫した芋は、家庭に持ち帰ったり、学校で調理して食べるそうです。

新田谷活動組織の皆さんありがとうございました。

「芋掘りが好き、安来が好き」コールでパチリ

突撃リポート

頼りになるのは「地元力」　昭和環境保全会（雲南市加茂町）

昭和環境保全会（雲南市加茂町）で、向上活動支援により土水路の補修を自主施工で行われたとお聞きし、環境保全会で書記を担当されている高橋さんの案内で、雲南市役所加茂支所の山根さんと共に訪ねました。

勢いよく流れる水路

■土水路にコンクリート製品を敷設

補修された水路は、上下流の既存のコンクリート水路の間、約２mが土水路まま残っており、降雨の度に土砂で埋まり、その都度泥上げをしていたそうです。

作業は有志６名で行われ、その内３名が補修作業経験者であり、現場での丁張りやカーブのある箇所への製品の敷設、幅の異なる水路をつなぐ作業もスムーズに出来たそうです。

資材の運搬を自分達で行ったことにより、「業者委託するより半分位の予算で出来たのでは」と話しておられました。

■アスファルトとコンクリート殻が混ざった砂利を利用

当日は共同活動支援で取り組まれた農道補修の現地にも案内していただきました。

補修された農道は、約１００mに渡り路面、水路に溜まった土砂が撤去され、アスファルトとコンクリート殻が混ざった砂利を敷きローラーで仕上げられていました。

私たちも歩いてみると、路面はしっかりと踏み固まっていて歩きやすく、砂利が流れることもしばらくは無いような気がしました。「通行しやすくなった」と地元から大変喜ばれているそうです。

整備後の農道

最後に「平成１９年度から積極的に活動を進めておられるその秘訣は」とお尋ねすると、「地元に色々なことが出来る人がおるだけんなぁ」という答えが返ってきました。やはり「地元力」が活動のキーワードだと改めて感じる一言でした。

案内していただいた昭和環境保全会の高橋さん、雲南市加茂支所の山根さん有難うございました。

突撃リポート！「地域の財産」を体験

阿井地区資源保全協議会（奥出雲町）では、次世代を担う子供たちに地域の自然や魅力について体験を通して学んでもらう活動が行われています。

１１月１８日（金）に、阿井小学校と水土里ネット奥出雲と連携して「川東水路“いざなみサイフォン”及び水路管理道路の見学会」が行われ、阿井小学校４年生１２名の児童と一緒に参加しました。

管理階段
水路管理道路まで、１２９段、約３０mを上ります。
はしご状の階段は、スリルいっぱいでした。

いざなみサイフォン
美味しいお米作りの源となる“水”がどうやって田んぼに運ばれているか、水路の役割等を聞き、その水路を守るための補修作業の様子を聞きました。
全国で５本の指に入る大きさのサイフォンに実際に触れてみて、みんなビックリでした。

川東水路
全体の長さが約8kmに及び、そのうち隧道１７箇所（約1km）、サイフォン１箇所（１３７m）を有しています。その水路から水を供給している田んぼは約８０ha、阿井地区の田んぼの約２５％を占めています。

教室では
川東水路の歴史や、模型を使ってサイフォンの仕組みを勉強しました。
サイフォンの中での命綱をつけた危険な作業にみんな驚いていました。

管理道路
今では、管理道路の下に水路が有ります。管理道路を歩き、以前使われていた水力発電所や隧道を見学しました。阿井に発電所があった事に、みんな初めて気づきました。

見学会後の教室では、「川東水路や“いざなみサイフォン”」についてクイズ形式で勉強し、子供たちからは、「水路は何人で造ったのか」「今は、何処が（誰が）守っているのか」等の質問が寄せられました。最後に「水路の仕組みや、役割が良く分かった。」と感想を述べてくれました。

明治２７年から始まる川東水路の歴史に触れることで、子供たちが「地域の財産」に気づき興味を持つきっかけになったのではと思います。

体験した子供たち一人一人がこの思い出を大切にし、いずれ阿井の水・土・里、川東水路を守ってくれることを祈っています。

協議会事務局

突撃リポート

地域活性化につなげて　～シバザクラ植栽～

亀嵩地区環境保全管理協定（奥出雲町）の梅木自治会では、田んぼの法面にカバープランツ（シバザクラ）を実施していらっしゃいます。今回は、地元の石原信夫さんに活動の様子や思いを伺いました。

植栽されたきっかけは何でしたか。

集落内で既に個人でシバザクラの植栽に取り組んでいる人がおられ、満開の花の素晴らしさに魅了されたことや、営農組合員の高齢化が進み、除草作業が負担になってきたことなどです。

シバザクラの植栽を通じて美観形成とともに作業負担の軽減が図れることがきっかけとなりました。

植栽はどなたが中心となって、何人位で行われましたか。

植栽は梅木原営農組合員（他自治会員も含まれる）とその家族、自治会員有志で行いました。

平成 29 年 3 月3日から平成 30 年 3 月 31 日の期間で、19 日間の作業を実施し、延べ 86 名（内自治会員は 21 名）が参加しました。

植栽に際し、参考にされた組織があれば教えてください。

安来市広瀬町東比田の「永田集落農地・水保全管理活動組織」です。

植栽されてみて集落の方たちの感想とかはどうでしたか。

植栽作業は大変でしたが、営農組合員の除草作業の軽減が図れましたし、満開のシバザクラを見て自治会員はもとより、通行される皆さんからも大好評を得ています。

これからの計画があれば教えてください。

集落内の皆さんからシバザクラの植栽範囲を広げて欲しいとの申し出があることから、今後も地域活性化にもつなげていこうと植栽範囲の拡大を計画しています。

突撃レポート

組織へ行ってみよう！

～魚巣ブロック編～

今回、地域の水路に魚を呼び戻そうと活動を続けておられる日下環境保全組合（出雲市）にお話を聞いてきました。

当日（６月８日）は、小雨の降る中、福代さん、荒木さん、柳楽さん三人の方にお話を伺うことが出来ました。（三人の方のお話は青文字にしています。）

魚巣ブロック

今日は、日下環境保全会で新しい取組みをしておられると聞いておたずねしました。

平成１９年度から子供たちと「水路の生き物調査」をしていますが、三面コンクリート水路で魚のより所がなく、昔ほど魚がいなくなったので、地域の水路３００mに５個の「魚巣ブロック」を置いてみました。

置かれる際に何か気をつけられた事がありますか？

事前に、島根大学の先生のところへ勉強に行き、アドバイスを受けました。魚の進入口が一定の方向にならないよう気をつけたりしています。それと、地域の皆さんに、魚巣ブロックの取組みを分かって貰えるよう、写真付きの看板を設置しました。

取組みを知らせる看板

魚巣ブロックの管理はどうですか。水路のゴミがブロックに引っかかりませんか？

魚巣ブロックの上が開くようになっていて、中の掃除が出来ます。ゴミは、水路掃除をしていますから大丈夫です。

発酵したＥＭ菌ダンゴ

効果は出てきていますか？

設置してまだ１年なので・・ただ、先日の川掃除の時にウナギが見つかったりして、少しずつ魚の種類が増えてきているのではと感じています。

最後にこの活動に対する思いは？

日下では子供たちに「EM 菌を使った水質保全」、「水路の生き物調査」など一連の活動で、「生き物はそれぞれ手をつないで生きている」ということを伝えたいと思っています。

日下のみなさん、ご協力有難うございました。

「突撃レポート」次回はあなたの組織にお邪魔します・・・

突撃リポート

用水路保全作業隊発足編

古志地区農地と水と環境を守る会（出雲市）では、「用水路保全作業隊」が発足し、４月１０日に作業隊の勉強会も兼ね水路の目地詰め補修が行われました。今回は、保全作業隊や水路補修の様子を古志地区の会計、黒目益宏さんに伺いました。（黒目さんの声は青文字にしています。）

「用水路保全作業隊」ができたきっかけは何でしたか？

古志地区では、兼業農家が多く、作業を行う際に参加者集めや日程調整が大変でした。今回、古志地区の中の本郷町内では各班から３、４名を「保全作業隊員」として登録し、いざ補修の際に参加者を確保し、作業計画が立てやすいよう農地・水のメンバーで作業チームを作ることを決めました。

水路などの補修箇所を調査、点検した際にも、「この程度の補修は自分たちでできるわ」との声があがり、今回、勉強会を兼ねた水路の目地詰め補修を行いました。

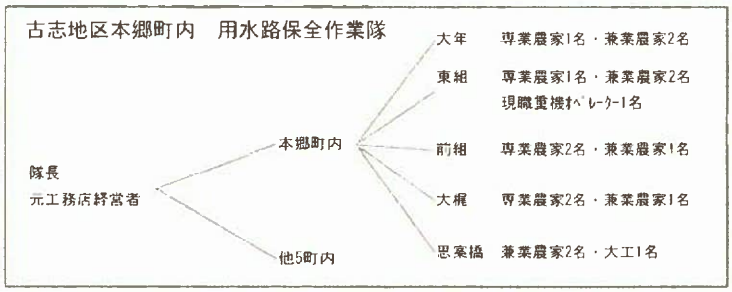
勉強会を兼ねた補修作業でしたが、どのような方が参加されましたか？

当日は、保全作業隊員を中心に９名の参加がありました。

今後は、本郷町内以外の町内にも作業チームを作る予定で、作業隊員は他町内の指導的な役割も担っていきます。また、講師は、協議会主催の研修会で講師をされた方にお願いしました。

活動を呼びかけた時の地域の皆さんの協力体制はどうだったでしょうか？

協力体制、気持ちともメンバーの意気込みは、すごいものがあります。



作業が終わっての感想や現在の状況はどうですか？

十数ヶ所のひび割れ箇所を講習を受けながら補修しましたが、参加人数が多かったので２時間で終わり、皆さんに喜んで頂きました。

これからの作業もできる限り多くの人数を集め、短時間で作業を行う必要を感じました。

また、作業後数日経って一部ひび割れが起こった箇所があり課題が残りました。

この活動を通じて皆さんの気持ちや、活動で何か変わったことがありますか？

どんな小さな補修箇所でも耕作者には避けて通れない大変なことです。農業者が高齢化していく中で、補修などを組織で行い個人の負担を軽減し耕作を続けてもらうことが必要だとみんなで話しています。

今後の古志地区の活動の予定は？

今秋には、本郷町内の用水路でジョイント部分の水漏れ箇所１６箇所を補修する予定です。

最後に４８５活動組織の皆さんへメッセージをお願いします。

今、私たちの資源を守るために何ができるか。

調査、点検を行いできることから、メンバーを少しでも集め、この輪を広げて大いに話し合い、まずは実行してみましょう。

黒目さん、ご協力有難うございました。

「突撃リポート」次回はあなたの組織にお邪魔します・・・

突撃リポート

“誰かがやらんといけんですけん”

落合会長

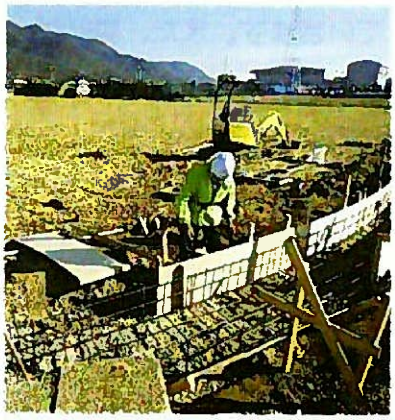
常松町を守る会（出雲市）は、出雲ドームの北西に位置し、南の広域農道沿いにはホームセンターなど商業施設が立ち並ぶ、商・農混在化が進む地域です。

長寿命化交付金を活用して幹線水路の補修の自主施工をしていらっしゃるとお聞きし、現地で落合会長、事務局の上田さんにお話を聞きました。

事務局上田さん

今回施工する水路は、最後に補修を行ったのはおよそ６０年もさかのぼる昭和30 年代で、当時も自主施工だったようです。そのため長い年月使われ続けたことで、床や側面などが水流によって削られ、コンクリート表面のひび割れや漏水が所々にみられるようです。

今回の施工では今年度中に５０m、５年間で１７０m の水路を全面補修する計画で、コンクリート施工や現場管理などの業務経験のある方を筆頭として取り組まれています。取材中まず目に飛び込んできたのは、組まれた鉄筋の列とそれを囲む型枠板でした。よく見ると鉄筋は緩やかに曲がっていて、お話によればそれは流速の安定や泥砂滞留の防止のため、水路をカーブ状にするためだとか。しかし、自主施工で（しかも製品なし！）水路をカーブ状にするのは、他に類を見ないほど難しい作業。それを為せるのは、落合会長をして「（設置が）５ミリでもずれると（他の作業者の方が）”いけん”と言うだけん。」と言わしめるほどの、徹底した職人気質ゆえかもしれません。またその他にも、止水板を使ってコンクリート接続部の漏水を防ぐ工夫もみられました。



いきいきと補修作業をされる一方、上田さんは「補修をしても、（農業活動を）いつまで続けられるか…」と不安の声もこぼされました。全国的な傾向にもれず、当地域でも後継者の不在が深刻な問題になっているそうです。また組織の活動に関しても、事務の複雑さや後任を誰がするか等、苦労や悩みも多いようです。

「誰かがやらんといけんですけん。」そう話された上田さんの言葉に、長年この地で活動をされてきた地域への思いと責任の重さを感じました。前回の補修から 60 年、守り続けてきた常松町の農業を担って活動される方々の頭には、“常松町を守る会”のヘルメットが白く輝いていました。

島根県土地改良事業団体連合会
水土里推進グループ　落合陽大（おちあいはるひろ）

突撃リポート

優しい色に包まれて

仮設の観覧席

邑南町口羽地区農地･水・環境保全管理協定内の川角（かいずみ）集落（８世帯）では、耕作が困難となった農用地に花桃の木を植栽し、集落の景観を守っておられます。

４月には花桃の木の桃色、白色、菜の花の黄色で集落が優しい色に包まれます。

今回は、川角集落の日高忠正さんに「花桃まつり」の様子や景観を守っていく活動について伺いました。

今年「花桃まつり」が大変賑やかだったようですが、どれくらいの方が訪れられたでしょうか。

シーズン中約４，000 人の来訪がありました。

お祭り当日は１，200 人でした。

県外からも沢山の方が

「花桃まつり」は今年で３回目と伺いましたが、植栽を始められたきっかけは何だったでしょうか。

耕作放棄地が増え、このままでは集落の風景が損なわれてるという危機感からでした。

集会所は無料の休憩所に

花桃と菜の花が咲き、本当に美しい風景が広がっていますが、この風景を守っていくためにどのような活動に取組まれていますか。

草刈り、花桃の苗作り作業が主です。今年からコシアブラやタラなど山菜も植えています。

活動をされるうえで、苦労されていることや、問題点がありますか。

作業に従事する人が高齢化し、活動参加人数に限りがあることです。

景観を守り育てていく活動や、このお祭りを通して、集落の皆さんの思いなど、何か変化がありましたらお聞かせください。

次の世代を増やしたい。収益性を高めて若い人が定住できる生活基盤を作りたいと考えています。

最後に、看板に「天国に一番近い里」とありますが、どのような思いなどがこもっているでしょうか。

この集落を「桃源郷」と見立て花桃や菜の花で美しい里づくりを進めて行こうと決めました。「この世の浄土」を創造していきたいという思いがあります。

昨年ＴＶで集落の皆さんの手で行われる「花桃まつり」の様子が紹介され、興味を持ちました。実際訪れてみると、風景とともに集落の皆さんの温かさが伝わってくるようでした。活動は大変でしょうがこれからも美しい川角の風景を守り続けてください。また花桃の時季に訪れたいと思います。ありがとうございました。

突撃リポート　カバープランツ編

「農悠久の里」（益田市美都町）では、農道・水路・農用地の法面の雑草対策と春の農作業が始まる前に美しい花を咲かせて、「楽しく農作業が始められたら」との思いから「カバープランツ」に取り組まれています。

苦労もあったようですが、数年たった今では地域景観の象徴として美しい農村風景をみせ、地域生活にもすっかり溶け込んでいます。

今回は、会計の草野文廣さんに活動の様子を伺いました。（草野文廣さんの声は青文字にしています。）

主に地域のどこに植栽を進めておられますか。

美都町仙道地区集落の中心地に所在する酒屋原圃場の農道・水路法面の約６００ｍに植栽しています。

どなたが中心となって、何人位で行われていますか。

平成１１年に酒屋原圃場の区画整理事業が終了し、農地所有者の時光敬一さんが始められました。その後、農地・水の活動組織が立ちあがったので、その活動の一部として酒屋原圃場の農業者の２人と婦人８人で行っています。

日頃の手入れが大切だと思いますが、年間の主な活動について教えてください。

植栽は４月に、除草は年により多少異なりますが４、６、９～１０月に、追肥は１０月に行っています。

植栽の作業や、植栽活動を続けていくうえで苦労されたことや問題点がありますか。また、注意や工夫されたこと、秘訣などがありましたら教えてください。

農道・水路・農地法面に植栽していますが、法面に砂利が多くあったため、植栽の活着率が低くなりました。

そこで活着を良くするため、ネットに真砂土などを入れポットにして植栽をしたり、マルチをする前に砂利など取り除いたりしています。今後植栽計画があれば、法面の土の状況を考慮して計画することが大切だと感じています。

農家の婦人が中心となって、おしゃべりしながら負担にならない程度で手入れをすることが長く継続できる秘訣だと思います。

植栽を通じて、地域や地域の皆さんの気持ち、活動自体に何か変化がありましたか。

仙道地区集落の中心に圃場があり、益田川を隔てて国道１９１号線が走っていることから桜の後の春の風物詩となっています。車で通る人々に「きれい・きれい!」と好評で、カメラマンが訪れシャッターを切る姿も多くみられるようになりました。

また、地区住民や近隣の皆さんからも、仙道の芝桜は「大変きれいね!」と言われるようになり、嬉しくなります。

現在、あるいは今後カバープランツに取り組む組織や、他の組織の方にアドバイスがありましたらお願いします。

現在、芝桜・日照草を植栽していますが単色です。複数の色を見られるよう計画したらより一層美しくなると思います。

突撃リポート　インタビュー編

魅力ある島根の景観づくりに貢献しているまちなみや建造物及び活動等を表彰する「第１８回しまね景観賞」が３月３日に発表され、「活動・工作物・その他部門」優秀賞を下田環境保全組合（隠岐の島町）が受賞されました。

今回は、代表　高宮守國さんの喜び!?の声をお伝えします。（高宮さんの声は青文字にしています。）

「しまね景観賞」優秀賞おめでとうございます。「屋那の松原」を守り育てていく活動が認められての受賞ですが、今どんなお気持ちですか。

認められたことは嬉しいのですが、この景観を維持していくことの責任を感じて、私たちだけでいつまで管理できるかの方が不安です。今回の受賞が、より多くの人達に保全活動へ関心を持ってもらうきっかけになれば良いのですが・・・・

「屋那の松原」を守り育てていくために、具体的にどのような活動をしておられますか。

近年、松くい虫による被害が広がっており、平成２１年度は、松くい虫耐性松を都万小学校児童と一緒に補植（５０本）し、平成２２年度は都万小学校児童、隠岐水産高等学校の生徒さんと一緒に植樹（４５０本）を行いました。管理としては、年２回程度下草の除草を行っています。

また、植栽地周辺に看板を設置して、地域の皆さんに私たちの活動を紹介しています。

「屋那の松原」は地域の皆さんにとってどんな存在ですか。

当松原は下田圃場の防風林として植林されましたが、地域の方々はそれほどまで防風林的な認識は薄いのではないかと感じています。ですが、松原がなければ多大な塩害を受けると考えています。

最後にこの活動に対する思いは。

活動に参加した児童たちが、成長して帰郷した際、大きくなった松並を見て自分たちが植樹したことを思い出してくれれば良いと考えています。

また、自分たちの手でふるさとの景観を守っていく気持ちが芽生えればと思っています。

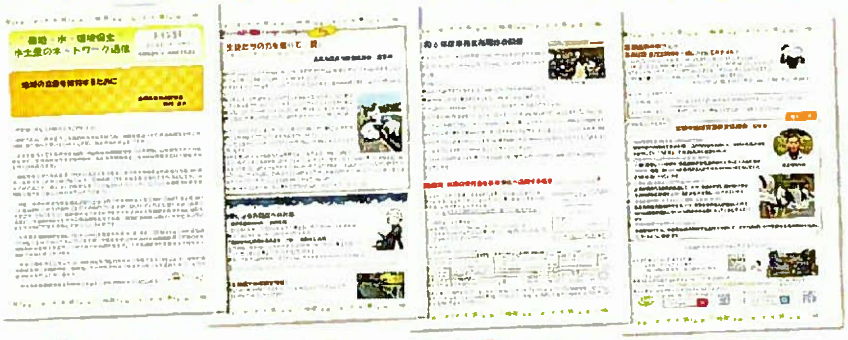
高宮さん、ご協力有難うございました。

「突撃リポート」次回はあなたの組織にお邪魔します・・・

令和6年度市町村別多面的機能支払の取組状況

令和6年10月8日時点

市町村	農地維持支払		資源向上支払（共同活動）		資源向上支払（長寿命化）		市町村	農地維持支払		資源向上支払（共同活動）		資源向上支払（長寿命化）	
	組織数	取組面積（ha）	組織数	取組面積（ha）	組織数	取組面積（ha）		組織数	取組面積（ha）	組織数	取組面積（ha）	組織数	取組面積（ha）
松江市	76	2,432	62	2,191	37	1,595	浜田市	40	1,398	37	1,382	25	1,147
安来市	96	2,419	74	2,088	70	1,936	江津市	15	344	12	308	7	154
雲南市	83	1,722	82	1,718	67	1,525	益田市	28	672	26	667	8	402
奥出雲町	9	2,476	9	2,476	9	2,476	津和野町	35	471	31	438	20	318
飯南町	22	1,065	22	1,065	20	1,031	吉賀町	10	210	9	201	1	30
出雲市	85	5,579	72	5,319	54	3,071	海士町	1	107	1	107	0	0
川本町	1	120	1	120	1	120	西ノ島町	1	338	1	338	1	338
美郷町	22	239	22	239	9	110	知夫村	1	244	1	244	1	244
邑南町	8	1,569	8	1,569	8	1,569	隠岐の島町	16	307	9	206	8	159
大田市	63	1,184	44	977	43	916	計	612	22,896	523	21,653	389	17,141



～担当者の声～

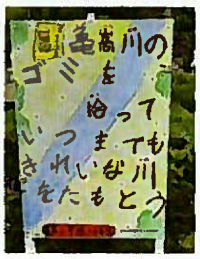
島根県農地・水・環境保全協議会では、平成１９年度から活動組織の皆さんへ、活動事例の紹介や国、県等からの情報提供のために「ネットワーク通信」を発行し全組織へ配布しています。今回シンポジウム開催にあたり、ネットワーク通信の記事の中でも、直接活動組織へ出向いて取材をさせていただいたりした、「突撃リポート」の記事を紹介させていただく事にしました。取材した組織からは、活動への想いなどいきいきとお話しいただくなど、活動の励みにしていただいています。突撃リポートを通じて、活動等に触れたりして、お話を伺うことで、活動のご苦労や課題を共有し、他の組織に紹介することで、活動の工夫や拡大が期待できます。また、活動の知見が広がることで、組織に対する適切な事務支援や助言等に繋がっています。（協議会事務局）

～多面的機能支払交付金に関することは～

◆島根県農地・水・環境保全協議会
〔事務局〕水土里ネット島根
Tel 0852-32-4141　Fax 0852-24-0848
http://www.nouchimizu-shimane.jp

◆島根県農林水産部農山漁村振興課　Tel 0852-22-5396
http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/nougyo/kojo_taisaku/

◆又は最寄りの各市町村担当課までお問合わせ下さい。



亀嵩環境保全協定
（奥出雲町）

全国の活動組織の事例はこちらから
多面事例

「農村ふるさと通信」はこちらから
農村ふるさと